

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|----------------|
| 事業所番号 | 1171000217 | | |
| 法人名 | 英和株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホームぽっかぽか | | |
| 所在地 | 埼玉県八潮市大字八條50番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 5 年 11 月 15 日 | 評価結果市町村受理日 | 令和 6 年 1 月 4 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社プログレ総合研究所 | | |
| 所在地 | 埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階 | | |
| 訪問調査日 | 令和 5年 12月 11日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活支援、自立支援を職員は理解し、生活リハビリとして掃除、洗濯、調理等残存機能を活用できるように入居者様に合わせた介護を行っている。
居室には、馴染みの家具や物を取り入れ今までに近い生活で過ごせるように工夫している。共同生活が円滑に送れるように、中庭で花々を見ながら季節を感じて頂いたり、散歩をして頂いたり気分転換を図っている。又、室内外のイベントを通して入居者様同士の交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人のデイサービスが併設されており、広い駐車場や複数の福祉車両が共同利用されている。事業所の前庭や中庭は、手入れが行き届いており、季節にそっての花や果物が利用者にも喜ばれ、巨峰の時期には摘み取りから一緒に楽しまれている。今春に、水害懸念から緊急警報が夜間に鳴ったときには、職員の連携もよく1階の利用者を2階の和室へ移したとのことであり、3ユニットそれぞれに和室があるのも幸いであった。利用者の意思と人格を尊重し、常に利用者本位のサービス提供を基本としており、一人ひとりに合った役割づくりを職員間で周知徹底されている。日曜日の食事は、献立も意見を聞き、職員と利用者が協力しながら調理が進み、役割をもって賑やかに楽しみの食事会となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所理念は職員が常に確認できるように玄関、エレベーター前に設置している理念に基づいた介護を行えるよう勉強会を行っている | 開設時からの理念を玄関他に掲げ、職員間だけでなく家族他へも周知されている。法人代表も参加するカンファレンスでは、業務内容を振り返り、方向性の統一を確認しており、議事録にて職員が確認している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域包括支援センターが催しているオレンジカフェに参加したり、地域包括支援センターからの情報と共に施設の情報を手紙やFAXにて報告している | 自治会に加入し、回覧板にて情報も得ている。併設のデイサービスで実施した三味線演奏会に参加したり、フラワーアレンジメントで有償ボランティア協力を得ている。オレンジカフェへの参加も再開された。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 施設行事や運営推進会議を通じて地域交流を深めていただくよう努めている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍において運営推進会議は休会中であるが、感染対策等、電話にて情報を頂いている | 運営推進会議は、コロナ禍の期間に感染対策から休会中となっているが、管理者は早々の再開を考えている。休会中も、地域包括支援センターとは、活動報告や地域の課題等を報告し合っている。 | 活動報告他の議事録を作成し、行政や自治会等へ挨拶を兼ね、地域交流をコロナ禍前に戻したいと考えている。行政とも相談し、運営推進会議の再開が期待される。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議には地域包括支援センター職員や入居者様の家族にも参加して頂いている 地域密着サービス事業者連絡会議に参加し情報交換を行っている | 市役所担当者も参加する事業者連絡会議では、管理者やケアマネジャーも参加しての制度説明や意見交換の場がある。長寿介護課担当者とは、電話や訪問等での意見交換としている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止委員会を設けている 勉強会やカンファレンスを行い、職員全員が理解できるよう努めている | 本社で管理者他が集まり、3カ月毎に身体拘束適正化委員会を実践している。管理者は事業所へ持ち帰り、カンファレンスで内容を説明している。「これは、拘束では？」を話し合い、「自分たちの都合になってないか」と、現場に即した意見交換がある。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | カンファレンスや事例検討会による勉強会を行い、職員全員が虐待防止を理解できるように努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人制度を活用している入居者様があり、理解できている職員もいる 又、必要に応じて説明する事で知識理解を深めている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に不安や疑問が残らないよう十分な説明を行っている 改定は書面でお知らせし、必要に応じて説明を行っている 署名捺印を頂いている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご入居者様には希望、意見が言えるように関わり方、雰囲気作りにも努めている ご家族との電話、手紙のやり取りをしている 玄関に意見箱を設置している | 身体変化等あれば随時電話連絡をする他、2カ月毎に手紙で様子報告をしている。都度の質問や来訪時に意見を聞く機会はある。面会についての質問が多かったが、感染症対策への説明で理解を得ていた。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月2回カンファレンスを行い、日々の業務においても常に意見交換を行っている 必要に応じて個人面談を行っている | 月2回実施しているカンファレンスで意見は出ている。管理者会議へ持ち越す議題もあり、制服出勤の緩和や髪の色などについての意見では、代表者共に受け止めている。個人面談も随時おこなっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 現場の意見や、年1回の個人面談において業務評価を行い職場環境や条件に配慮できるよう努めている 10年勤務の職員には商工会主催「優良従業員表彰」に推薦し表彰を行っている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 認知症基礎研修を行っている 全員が受講し、資格を取得した 上の資格を目指す職員に対しては受講料等を会社で負担している | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 系列の施設と合同で研修を行っている 町のボランティアの催し等に3事業所合同で参加している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメント情報を確認し、ご入居者様と関わっている 傾聴を行いながらご入居者様の不安、要望を知るよう努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前にご入居者様、家族と話し合いご意見、ご要望を十分に伺うよう努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前の十分な聞き取りを行い、それを基に検討し、ケアプランを作成している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人ができる事、したい事を支援するように努め、入居者様それぞれの思いに寄り添う意識で関わっている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 2ヶ月に一度手紙で様子を報告している 必要に応じて電話連絡を行い、情報交換を行っている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 手紙、電話の取次ぎを行っている 家族の自宅に外出される入居者様もおられる | 旧友や知人からの手紙はあり、家族と相談して返事を出すこともある。新型コロナウイルス感染症の5類引き下げ以降は、お墓参りや自宅への外出はある。趣味の塗り絵や編み物は継続しており、花瓶敷きやコースターの作成がある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | イベントやレクリエーションに参加して頂き、周りと話しやすい環境づくりを努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院、又は他の施設へ移られた後などでも必要に応じて情報を提供するように努めている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々のコミュニケーションを通じて、本人の希望や意思の把握に努めている 希望などを家族へ報告し連携し希望に沿うように努めている | 日常の会話でも思いを聞くことがあり、個人記録に残し情報共有している。居室担当者の気付きも共有している。表現の難しい利用者は、行動や表情から判断しており、トイレ誘導の声掛けにも配慮がある。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 事前に家族から本人の生活歴、生活環境を聞きケアに取り入れるように努めている 趣味がある方は、できるだけ続けられるように努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個人記録やカードックス、月次を作成し職員間の情報共有を行っている 往診医、医療機関と連携し情報共有に努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスや月次を作成し、ケアプラン見直しの検討を行っている 家族や医療機関とも適時相談を行い、ケアプランに反映させている | 居室担当者は、月次モニタリング用紙に現況を記載し、計画作成者が確認のうえ見直しをしている。3名の計画作成者による意見交換を経て、関係者や家族意見も取り入れ介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録やカードックスを作成し日々の様子を分かりやすくしている 又、申し送りを行い情報共有している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 職員からの意見を検討しながらサービスの変更も考えいる | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町会に加入している 地域の行事には積極的に参加している 今年3年ぶりの「歌と踊りの祭典」に参加し、「北国の春」を発表した | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 施設の往診医へ移行されるか入居前のかかり医を継続されるかは選択できるようにしている | 月1回の訪問診療としているが、3ユニット毎に別日であり臨時で診ることも出来ている。夜間で判断が難しい時には、救急安心センターへ相談することもある。往診医は、内科と精神科医である。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の関わりの中で入居者様の状態把握に努め、適時看護師に相談している | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時にはサマリーを提出している 適時、病院関係者と連絡を取り、状態を把握し相談を行っている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化、終末期の際の契約を書面で交わしている 重度化、終末期に至る状況においては適時ご家族往診医と相談しケアの方針を決めていく | 入居時には、終末期において出来ることと出来ないことを説明し、家族の理解を得ている。重度化が進んだときは、主治医から家族への説明があり、介護の方針や生活の場を相談する機会を設けている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 全職員の資格取得を目指し、救急救命講習会を受講させている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 各ユニットにマニュアルが設置されている 年2回デイサービスと共に防災訓練を行っている 台風による警戒レベル発令の際、垂直避難を行った | 年2回の消防訓練は、併設デイサービスと共に実施し、前回は水害想定での避難を夜間想定として垂直避難を体験した。被災時備蓄品は、法人が一括で管理している。各ユニットにマニュアル配備されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ゆっくり落ち着いて、声のトーンにも気を配りながら声かけを行っている | 入浴時や排泄、オムツ交換時など、羞恥心に配慮した対応がなされている。年間研修計画でも尊厳の維持とプライバシー保護を取り入れており、呼称など気になることがあれば職員間で注意し合うようにしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 会話から好き嫌いを把握し、生活の中に取り込むよう努めている 又やりたいと思っている事を支援するように努めている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人がやりたい事、編み物、ドリル、塗り絵、ゲームなど希望された事をできるように努めている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人が希望しているものを家族へ連絡し、そろえて頂いている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節感を大事にしている 行事ごとの料理、果物など取り入れている 又、日曜日昼食は職員と食事作りをする時もある | 日曜日は、職員と利用者が共に皮むきや胡瓜のスライス等々で喜ばれている。「ラーメン屋さん」では、エプロン姿でお手伝いがあり賑やかである。おせち料理など催事食は事業所全体で楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量を常にチェックし記録している 食事形態を本人の状態に合わせている 管理栄養士とも連携が取れている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを行っている 本人の状態を見て、介助を行っている 毎日義歯の消毒も行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを把握しトイレでの排泄ができるように努めている 羞恥心にも配慮してトイレの促しを行っている | 排泄チェック表からの声掛けは、さりげなく小声とし、失敗の際には耳元で誘導をしている。布下着とリハビリパンツ使用は約半々である。退院時はオムツ使用でも、早めにオムツは夜だけとして排泄自立に向けている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日々の体操、歩行運動を行うことで便秘予防に努めている 記録にも記入し、便秘が続くときには水分補給に努め往診医にも相談を行っている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入居者様の体調や気持ちを組んで曜日を変更している 環境づくりに努め楽しく入浴できるように、季節に合わせた菖蒲湯やゆず湯を行い、冬場には入浴剤を取り入れている | 週2回の入浴とし、拒否があれば他ユニット入浴も取り入れている。入浴後は「髪をセットしましょう」と声をかけ、ドライヤー時に化粧水を施すと喜ばれている。長湯を好む利用者は最後とし「ゆっくり入りましょう」としている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 健康的な生活のリズムが保てるように努めている 入居者様の体調や把握に努め適度に休息や昼寝をして頂いている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤師より薬の説明やアドバイスを受けている 服薬の変更時は周知の徹底を図り、様子観察を行い、変化の確認に努めている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者様の状態に合わせた家事作業を行っている 季節毎のイベントを行っている 入居者様の希望を伺い、編み物、塗り絵、読書、ドリルなど行っている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 日用品の買い物や受診の希望など家族と協力し実現に努めている 近隣を散歩したり、ドライブなど外出に努めている 中庭での体操やティータイムを楽しみながら外気浴を行っている | 近くの土手への散歩は喜ばれている。広い庭には四季それぞれの花が咲き、ベンチやベランダで外気浴や体操を楽しんでいる。家族との外出を喜ばれる人も多く、月に一度は自宅に帰られる人もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 外食や買い物などで商品を選び購入できる機会を設けている | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話、手紙の取次ぎを行っている 入居者様は暑中見舞い、年賀状を家族や友人に出せるようにしている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節ごとのイベントの飾りを入居者様と職員で行い、常に季節を感じられるように努めている 照明、温度の調整を行い、快適に過ごせるように努めている | 陽射しの強い日には、カーテンで調整したり外気を入れたり工夫がある。木のぬくもりを大切とし、居心地の良い空間作りがある。壁面には共同制作の装飾がなされ、今は干支の龍を作っている。洗面台を自主的に磨いてくれる利用者もある。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブル、ソファ、和室などのスペースを確保しており、個室も含めてお好きな場所でくつろげるように配慮している | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの家具を持ち込んで頂き、自宅にいるような安心感や居心地に配慮している 家族の写真、ラジオなども持ち込んで頂いている | 自宅で使っていたタンスや布団を持ち込み、家族写真やラジオ、自宅で飾っていたもので自身の空間作りがある。部屋の入口には自身の作品を飾り喜ばれている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室ドアには自分の作品を飾り、ご自分の部屋がわかるようにしている トイレもわかりやすい環境作りに努めている | | |